

海辺のまちに市民の活動が浮かびあがる音楽広場

海に開かれた緑豊かな地形によって育まれてきた金沢八景の街並みの中で、再開発により生まれ変わった駅前に新たな賑わいをもたらす、市民が自ら創り出す文化・芸術活動を発信する舞台として、ここで繰り広げられる風景が街そのものの魅力となる立体的な広場のような開かれた施設を提案します。

(2) 施設利用者の利便性や快適性の提案
ア 利用者が使いやすい施設としての考え方

■市民の創造性を高める多機能で利便性の高い可変型ホールの提案

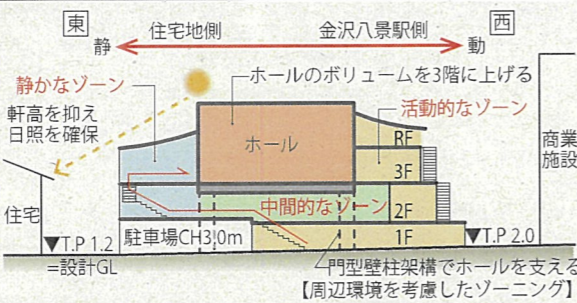
近隣に固定舞台でクラシック音楽向けの長浜ホールがあることから、本施設のホールは音楽から演劇、ダンス、映像、講演、イベントなど利用形態に応じてより多機能に使える可変性を重視します。使いやすい矩形プランとし、平土間床の一部を掘り込んで2重床とすることで大掛かりな舞台機構を用いずにステージをつくることができ、さらに前室を長手側に広く設け、横使いの扇型レイアウトにも対応できる設えを提案します。天井全体にはグリッドフレームによる点検スペースを設け、照明・スピーカー等の配置替えがしやすいように配慮します。



(1) 周辺環境と調和したデザイン
ア 街に開かれたデザインとして気軽に立ち寄れる雰囲気づくりの考え方

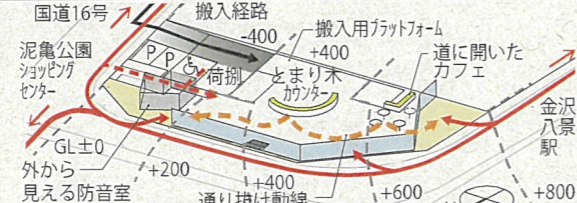
■駅前市民文化活動のシンボルをつくる

3方を直接道路に面する駅前単館型施設の特徴を最大限に活かして隣地側以外は積極的に街に開くため、ホール（音楽多目的室）を3階に持ち上げ、主入口から外周に沿ってスムーズに登れる動線空間と周辺環境に配慮した「動から静へ」の機能的なゾーニングにより、各階でそれぞれの活動が内外に自然に溢れ出すような構成を提案します。



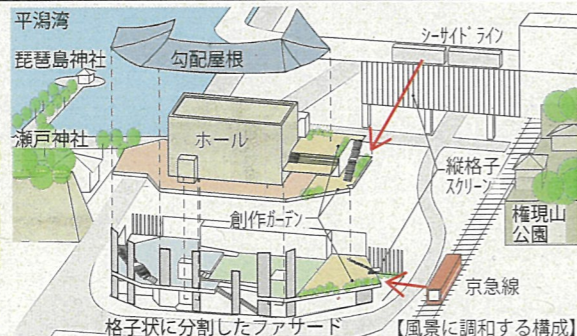
■敷地の勾配を活かし、周辺との連続性をうみだす

西から東へ下る敷地の高低差を1階床で吸収し、どの面からも段差なくバリアフリーアクセスで通り抜けできるようにすることで地上レベルに活力をもたらす、商店街のように誰でも気軽に立ち寄れる雰囲気をつくりだします。



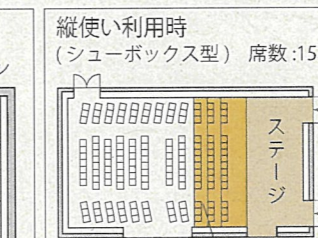
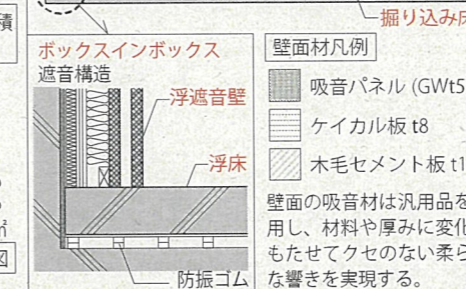
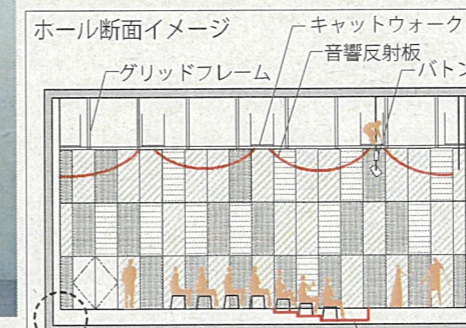
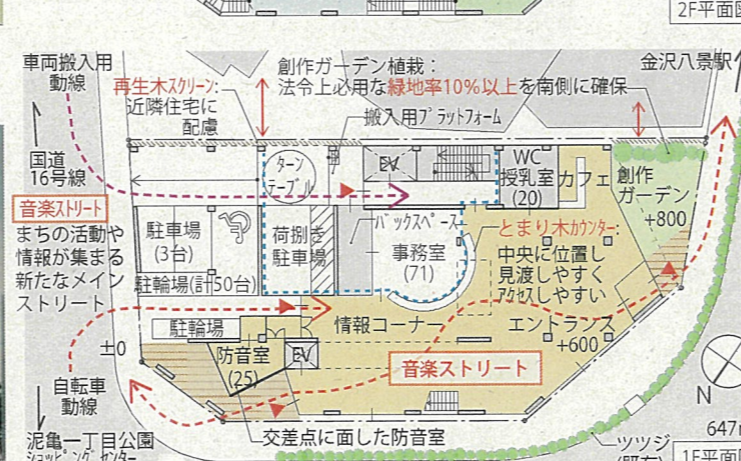
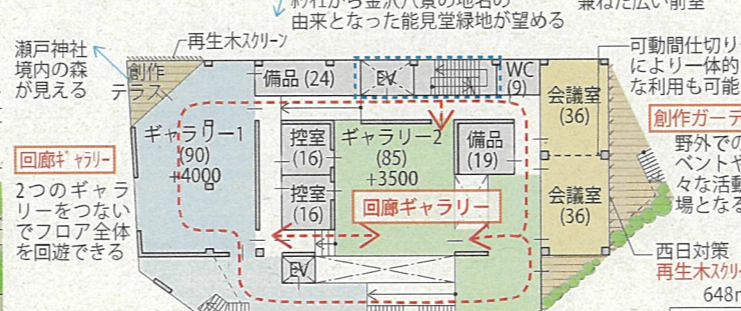
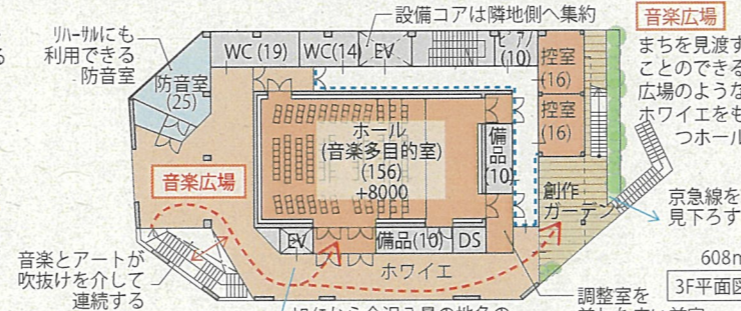
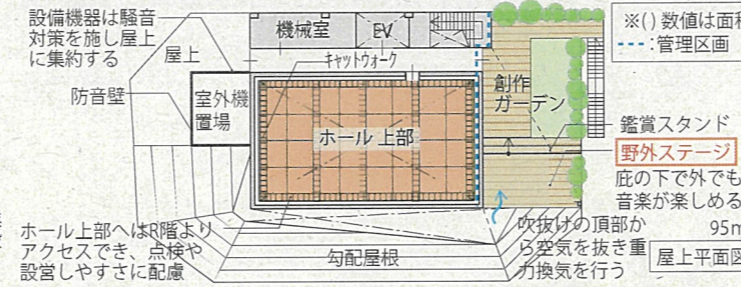
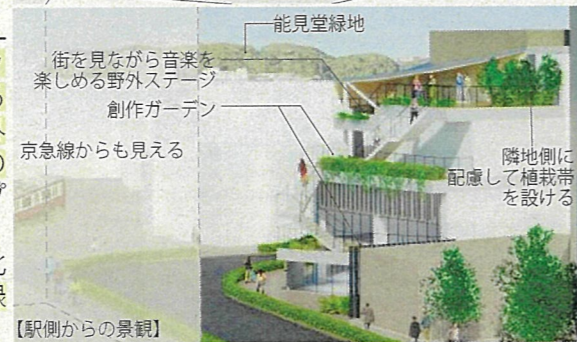
■海辺の風景に調和するヒューマンスケールの活動が街の新たな魅力となる

ホールの外装は瀬戸神社の岩肌や権現山公園の緑と呼応し、海辺の風景に溶け込む土壁のような柔らかい素材感とします。ホワイエの勾配屋根は外周部の高さを抑え近隣の圧迫感を軽減し、水平な床と垂直な壁柱により格子状に分割したファサードがデザインガイドラインに沿った周辺環境との調和を図ります。特に隣地側は縦格子スクリーンでプライバシーに配慮します。

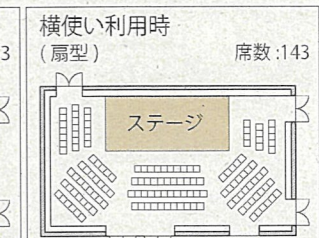


■街とつながる立体的な創作ガーデン

日当たりのよい南側には、セットバックしながら2階から屋上までつながる「創作ガーデン」を提案します。野外での音楽会やプロジェクションなどのイベント活動がシーサイドライン駅プラットフォームや京急線からも見え、活動を街に広げていきます。屋上緑化により駅側から遠くに望む「能見堂緑地」に連なる緑の景観をつくりだします。



縦使い利用時 (ショーボックス型) 席数:153
バックヤードが近く、演劇やダンス、講演会など幅広く使いやすい客席配置。簡易な掘り込み床によりステージ前に段差をつくり利用者の鑑賞しやすさに配慮する。



横使い利用時 (扇型) 席数:143
ステージと客席の距離が近く、室内楽では演者の息遣いや表情を近くで感じられる親密で理想的な空間。横長のステージを取り囲み会場の一体感が高まる。

■フロア全体を使って様々な活動が展開できる回遊性の高い「回廊ギャラリー」と会議室

上下階からアクセスしやすい2階には、安定した北面採光の空間と吹抜けに面した開放的な空間からなる2つのギャラリーを配置し、回遊動線により一体利用も可能とします。屋外の創作ガーデンにつながる会議室を併設し、セミナーや創作ワークショップでの連携など様々な市民ニーズにフレキシブルに対応します。

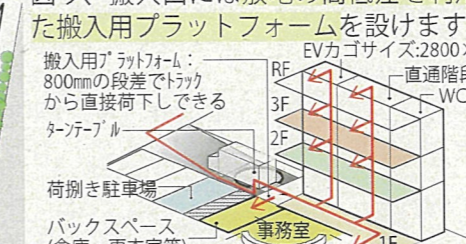


■事務室を中心に据えた明快な動線計画

1階事務室は全体を見渡しやすく利用者とのコミュニケーションがとりやすい円弧状の「とまり木カウンター」を中心に置き、各階隣地側の管理ゾーンを階段・人荷用EVでつなぐ効率的なサービス動線とします。トイレ等の水廻りはコア周辺に集約。車両動線は国道から近く左折入庫できる東側として歩車の完全分離を図り、搬入口には敷地の高低差を利用した搬入用プラットフォームを設けます。

■敷地特性を活かして賑わいを街に広げる

駅側のアプローチ沿いには通りに面して単独運用もできるカフェスペースを設置。エントランススペース、情報コーナー、事務室は一体的な空間とし、1階全体を利用者同士さらに運営スタッフも含めた市民の交流が自然に生まれる「音楽ストリート」とすることを提案します。防音室1室は1階北側の交差点に向けた道沿いに配置し、市民が利用しやすく周辺にも活動が広がるような設えとします。事務室からすぐ目が届き管理上も有効です。



■高耐久メンテナンスフリー外装材の採用

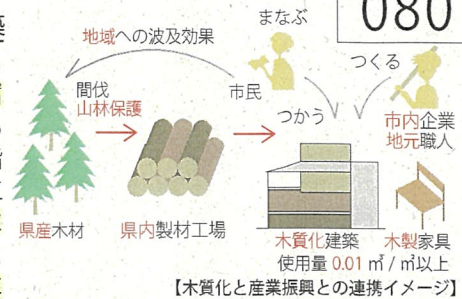
ホール外壁はセルフクリーニング機能付左官材、金属材料は塩害を考慮して溶融亜鉛メッキ鋼又はSUS鋼を採用します。



（3）環境負荷低減及び省エネルギー等の考え方についての提案

■金沢区ならではの新しいシンボルとなる木質化・再資源利用の環境建築

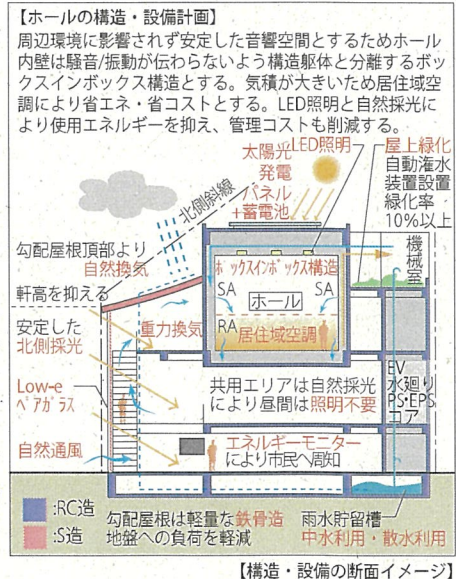
内外装の積極的な木質化として、音響効果を高めるホールの内装や街からもよく見える勾配屋根の軒裏に県産木材を利用し木材使用量 0.01 m³ / m² 以上を達成します。県内で伐採から製材まで行い認証材として使用できる間伐材（秦野市等）の採用を検討し、環境に配慮した先駆的な建築を目指します。什器は横浜マイスターの職人や県の家具協同組合の木工・家具工場の技術を採用し、ショールームのように市民が地場産業について実際に使用しながら学ぶことで、地域の産業振興を図りつつ広く波及させることを提案します。環境負荷低減策として、パッシブとアクティブを効果的に組み合わせた手法を採用します。各階南側にテラスを持ち、吹き抜けと勾配屋根による立体的な空間構成で自然通風・自然採光を最大限に活かし、共用部の照明点灯と機械換気を最小限に抑え、低コストで快適な室内環境を整えます。災害時への対応も考慮して太陽光発電・蓄電池・雨水利用を比較検討・予算の範囲内で導入します。金沢区はビーチクリーン活動など環境への意識が高く、鳥浜にリサイクル工場もあることから、廃プラスチックや木を再資源化した人工木材、再生舗装材等の再生建材を見える場所で積極採用して普及を図り、エネルギー使用量はモニターで視覚化するなど金沢区ならではの先進的で親しみやすい建築を実現し、SDGs を達成するこれからの環境建築のシンボルとなることを志します。



（4）コスト縮減の考え方についての提案

■コスト縮減と施設の長寿命化に配慮した合理的な構造・設備計画

工事ヤードの狭さによるコストアップと工事中の安全性を考慮し、主構造は RC 造とし、勾配屋根と道路沿いのファサード部分のみ鉄骨造を採用することで地盤への負荷を軽減し、杭のコストを縮減する合理的な構造計画とします。既存地盤の高低差を活かしたプランとすることで、造成コストを抑えるだけでなく、どこからでもアクセスしやすい平面計画とします。設備コアの集約や音楽多目的室の調整室を前室と兼ねること等によりプランをコンパクトにまとめて 3 階建ての低層に抑えることにより、工期短縮を実現し周辺の住宅やマンションにも十分に配慮した断面計画とします。上記の環境負荷低減策に加えて高断熱高气密化・高効率機器の採用で、空調負荷や使用エネルギー量を削減することで LCC・LCCO2 を縮減し、建物の ZEB 化を進めます。躯体の高品質化・長寿命化として高強度コンクリートや、耐久性が高く汎用性のある仕上げ材料を採用し維持費まで含めたトータルコストを抑えます。設備機器の更新と将来の改修、用途変更にも容易に対応できる構造・設備計画とします。音楽多目的室は昇降床など高価で専門技術者による操作が必要な設備を見直すことで設備・人件費を抑える一方、利用者が簡易に設営できる掘込み床やフレキシビリティを高める天井内キャットウォークなど、創作活動を盛り上げる設えを考案します。



■多様な活動を経済的・合理的に可能にする音楽多目的室の音響計画

- ・音楽から演劇まで幅広い利用を考慮し、残響時間は 0.8~0.9 秒程度（中音域、満席時、平均吸音率 27~28%）を想定。
- ・密度の濃い反射音が得られる理想的な矩形室とし、拡散形状や吸音材の分散配置等により癖のない素直な響きを目指す。
- ・道路の交通騒音や振動、鉄道の走行振動に対しては、固体伝播音の影響が懸念されるため浮き構造の採用を検討。
- ・NC-20 は静かすぎて余計な音が聞き取れてしまう懸念があり、コスト縮減の観点からも NC-20 目標 NC-25 許容を提案。

（5）業務の成果物等の品質確保、業務の進め方と取組体制についての提案

■フロントローディング型設計手法と徹底した成果物の品質管理・高品質な建築を実現する取組体制

関係部局や地域の方々へのヒアリング、現地調査、事前協議により与件を早期に把握します。管理技術者が運営する市関係者の合同会議を定例化し、各部門の課題を共有して効率的に業務を進め、意匠・構造・設備・積算の各担当が参加する設計チーム会議を上記定例会議と連動開催し検討と意思決定のサイクルを最短化、結果を確実に成果物に反映させます。本市公共施設（延床面積約 5000 m²）の設計監理実績を持つ設計チームに本市区民文化センターの実績を持つ音響・舞台設備コンサルタントを加え、専門性の高い施設に対して万全の体制で取組みます。基本・実施設計の各段階の全体工程表で目標を明確にして各分野の進捗を管理、クリティカルパスを明確にして段階的チェックにより品質確保を徹底します。積算は大きな手戻りが発生しないよう積算用設計図書や内訳一覧・工事区分等の確認を発注課と段階的に行います。営繕工事積算チェックマニュアル等も活用し、更なる積算の精度向上・スピーディな変更対応として BIM の導入を検討します。設計チームが継続的に工事監理まで行うことで、設計意図を確実に施工者に伝達し、施工段階での変更にも柔軟かつ迅速に対応します。特殊な工法に対しては施工マニュアルの作成や施工者（元請+職長）を交えた現場検討会を実施するなど、施工者の技量に左右されない高品質な建築を実現する監理体制を構築します。